

令和元年度第1回 倫理審査委員会

令和元年7月26日

受付番号01-1

申請者	外来看護師	袴田 多佳子
課題名	精神科訪問看護の取り組みと効果 ～ 訪問看護による患者の生活自立能力の比較 ～	
研究の概要	<p>精神科訪問看護の先行研究は多く報告されているが、利用者側から見た研究はまだ少ない。地域で生活する精神障害者が自分の好きなことを見つけて生活を楽しみながら経験を積み重ねて「できた」と言う成功体験を持つことが重要である。</p> <p>そこで、精神訪問看護の実践に活用できるようにするために、本研究では、訪問看護の経過の中で利用者が自分の楽しみを見つけるための支援をすることにより、どのような変化が起きるのかを明らかにすることを目的とする。</p> <p>地域で生活する統合失調症患者が、自身のセルフマネジメント能力を高めることで自立した生活が営むことができるようになり、楽しみの中から希望を感じて目標を見出し、それに向けて行動することが生活の質の充実であり、更には社会参加することで自己の生活に対する価値観が上がると考える。</p>	
判定	<p>条件付承認</p> <p>○ 研究期間について、来年度以降も継続し実施するよう検討のこと。 またその場合にあつては二次利用予定について申請書文言訂正のこと。</p>	

受付番号01-2

申請者	1病棟看護師	中沢 直人
課題名	精神科看護師が認識する退院支援に必要な看護実践 ～ 新人と熟達者の違い ～	
研究の概要	精神科病棟看護師の退院支援における看護実践について新人と熟達者の違いを明らかにし、問題点今後の課題を検討する。A 病棟における精神科急性期の経験年数を満4年までの看護師と満10年以上の看護師に分類化し、どのような知識・実践に違いがあるのかを明らかにすることで、経験年数の浅い看護師に知識や実践の共有ができ、質の高い退院支援の提供に繋がるのではないかと考える。	
判定	承認	

受付番号01-3

申請者	2下病棟看護師	小林 健太郎
課題名	統合失調症の長期入院患者が退院に至った要因 ～ インタビューから振り返る看護の役割 ～	
研究の概要	<p>先行研究では、長期入院の患者の退院は、医療者のかかわりが重要であることが明らかになっている。</p> <p>当病棟では、これまでも多職種チームで協力し、退院促進の様々な取り組みを行ってきたが、退院に結びついていない現状があった。これらを踏まえ、その中でH30年度は全ての統合失調症患者への心理教育に実施や、チームケアカンファレンスの件数の増加、薬剤指導や退院前訪問にも力をいれ退院支援を行ってきた。その結果、H30年度の長期入院患者の退院数は16名となり、前年度に比べ1.7倍と増加した。</p> <p>本研究の目的は、長期入院していた統合失調症の患者が退院に至った要因を明らかにすることである。退院に至った要因が明らかになることで、より適切で具体的な看護の関わりができるかと考える。</p>	
判定	<p>条件付承認</p> <p>○ インタビューガイドの中に、地域生活を維持する上での工夫点、重要視している点などの項目を入れるよう検討のこと。</p>	

受付番号01-4

申請者	3病棟看護師	杉村 天祐
課題名	新人看護師の離職をしようと思いつく要因及び離職を踏みとどまった要因 ～ 精神科に勤務する新人看護師へのインタビューを通して ～	
研究の概要	<p>新人看護師の離職について、最初の施設での就業期間が一年未満の者の転職後の就業期間を見ると3年以内の者が7割強と多く、一施設で継続して働くという状況が見られないとされている。そのため新人看護師の早期離職を防ぐ対策が必要である。</p> <p>さらに看護師の中でも精神科看護師は、バーンアウトの発生率が高いとされ、その理由として一般的な看護師の職業ストレス要因に加え、患者の粗暴行為や閉鎖的環境、看護への不達成感等、精神科特有の問題が指摘されている。</p> <p>一般科における、新人看護師の離職を踏みとどまった理由を研究した文献はあり、新人看護師の早期離職を防ぐための課題が示唆されているが、精神科新人看護師の離職に関する要因、また、踏みとどまった要因における研究は少ない。以上より本研究では精神科の新人看護師を対象とした離職しようと思いつく要因、そして踏みとどまった要因を明らかにしていき、その結果に基づき新人看護師に対し、離職予防を検討することを目的とする。</p>	
判定	条件付承認 ○ 2年目に加え3年目看護師も併せ実施し、6病棟も対象とすること。	

受付番号01-5

申請者	7東病棟看護師	池田 敦子
課題名	重症心身障害児(者)に対して感じる印象の変化と変化のきっかけ	
研究の概要	重症心身障害児(者)(以下重心児(者)と略す)病棟に関わるスタッフは初めて患者に接したとき患者に対して様々な印象を持つと考えられるが、どのような印象を持ったのか、その印象に変化はあるのか、また変化があればそのきっかけとなった経験はどのようなものなのかを調査する事で、印象の変化の内容を明確にする。そして今後重心児(者)病棟に新しく迎えるスタッフに対して教育する場面に活かす基礎的資料を得ることを目的として本研究に取り組む。	
判定	条件付承認 ○ アンケート依頼文書中の指摘した文言を削除すること。	

受付番号01-6

申請者	7西病棟看護師	高野 瑞希
課題名	睡眠障害を持つ重症心身障がい者への関わり ～ 日光浴や昼間の刺激を取り入れ、睡眠障害の軽減を図り生活リズムを整える ～	
研究の概要	<p>当病棟には睡眠障害を抱えている患者が 31 名中 13 名と多く、睡眠薬を使用している患者もいる。睡眠障害による影響は、自律神経異常、ホルモン分泌に支障をきたしたり、免疫低下、ビタミン D 不足(骨の異常)等、疾患の発生や悪化に繋がる。他にも、心身の疲労や集中力低下により転倒や転落に繋がる可能性もある。当病棟の患者の中には、日中眠ってしまうことで生活のリズムが崩れ食事摂取量の低下に繋がっている者がいる。また、病棟の行事やお楽しみ会に参加できない等日常生活にも影響が出ているため、検討したいと考えた。</p> <p>今までにも睡眠障害を抱えている患者に対して、日中の声掛けを行い覚醒を促したが、具体的な対策や統一したケアが行われていないため、睡眠障害を改善する事が出来ずスタッフは対応に困難さを感じている。</p> <p>今回は先行研究を参考に、日中の活動(日光浴や昼間の刺激)が睡眠障害を改善し、生活リズムを整える事ができるか研究に取り組みことにした。</p>	
判定	条件付承認	
	○家族への定期的な報告(月 1 回程度)を実施すること。 ○同意書、同意撤回書における指摘した部分について文言を訂正すること。	

受付番号01-7

申請者	8病棟看護師	石井 綾子
課題名	対象者の暴言・暴力が及ぼす医療観察法病棟看護師の思い ～ 有効なサポートについて考える ～	
研究の概要	<p>A病院医療観察法病棟では、近年、主な精神疾患と発達障害や精神遅滞との重複障害、人格障害などの困難事例が増加しており、衝動性の高い対象者への対応に伴い暴言・暴力の発生件数が増加している。また、医療観察法の入院期間の目安は1年半であるが、暴言・暴力のある困難事例に該当する対象者の入院期間は長期化する傾向にある。病状の不安定さや治療プログラムの停滞、退院調整の困難さから自己コントロール能力の獲得、退院調整などに時間を要するためである。そのため看護師は、暴言・暴力を受けた後も長期にわたり対象者をケアすることとなる。特に担当多職種チームとして関わる看護師は、対象者から暴言・暴力を受けた後もその対象者と長く関わることとなり、そのストレスは大きい。これは、暴言・暴力を受けた医療観察法病棟看護師のメンタルヘルスや仕事への意欲に影響すると考える。</p> <p>現在、A院医療観察法病棟では衝動性が高い対象者達への対応により、看護師が暴言・暴力を受ける機会が増えている。看護師が暴言・暴力を受けた事のストレスを抱えている中で、病棟として十分なサポートが行えていないと感じている。そこで、対象者から暴言・暴力を受けた後の病棟環境で、看護師はどのような思いを抱えて勤務しているのかを明らかにし、どのようなサポートが有効なのかを検討したい。</p>	
判定	承認	

<p>申請者</p>	<p>6病棟看護師</p>	<p>丸山 千衣</p>
<p>課題名</p>	<p>Fish哲学の導入における職員の活性化の検証</p>	
<p>研究の概要</p>	<p>看護師は、不規則な交替勤務、人の生死に関わる責任、対人関係などのストレスの多い職業である。A 病棟では、主に認知症患者のケアを主とした病棟である為、ケアを行う中で患者との意思疎通に困難を感じる事が多い。多くの患者は尿意や便意を訴えることができず、そのため排泄の援助や更衣に多くの時間を要する。近年、高齢化に伴い A 病棟でも身体的介助を要する患者が増えている。体の大きい患者、身体合併症を有する患者が多く看護師の身体への負担も大きい。A 病棟の看護師は患者との関わりを重要視し、常に最善の看護を提供したいと思っているが、突発的に起こる患者対応に、人員や時間を割かなければならない現状があり、患者への関わりが十分にもてずにいることにジレンマを感じている。A 病棟では看護師が心身ともに疲弊し、仕事に前向きに取り込むことができず、楽しみを見いだせていない現状がある。</p> <p>このことから A 病棟でも Fish 哲学を導入し、①遊び心を取り入れる。②人を喜ばせる・楽しませる。③相手に注意を向ける。④態度を選ぶ。の概念に基づいて活動する事で、看護師の気持ちが明るくなり、楽しく働ける効果が期待できるのではないかと考えた。そこで、事前に記入式のアンケートを取り、看護師が負担に感じている業務を明らかにし、その業務に焦点を当て Fish 活動を実践する事で、看護師の抱えているストレスが和らぎ、仕事へのモチベーションがあがり、更に看護師全員がいきいきと働くことで、患者への看護の質も向上するのではないかと考えた。</p>	
<p>判定</p>	<p>条件付承認</p> <p>○ 課題名に「認知症病棟における」を追加する。</p>	